

平成 26 年度入学試験問題(推薦入試 I)

小論文

農学部 地域農業工学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、90 分である。
5. 横書き、鉛筆(シャープペンシルを含む)書きにすること。

問 題

環太平洋パートナーシップ (TPP) 協定については、2010年3月に P4 協定 (環太平洋戦略的経済連携協定) 参加の4カ国 (シンガポール、ニュージーランド、チリ及びブルネイ) に加えて、米国、豪州、ペルー、ベトナムの8カ国で交渉が開始された。その後、マレーシア、メキシコ、カナダ及び日本が交渉に参加し、現在は12カ国で、アジア太平洋地域において高い自由化を目標とし、非関税分野や新しい貿易課題を含む包括的な協定として交渉が行われている。この協定の中で、農産物の関税の撤廃を含め、農産物貿易の自由化の取り扱いが大きな交渉テーマの一つとなっている。このようなことを踏まえ、将来の我が国の食料・農業・環境に関わる課題の解決のために、琉球大学農学部地域農業工学科で学ぶことが、どのように役立つと考えるか、あなたの考えを800字以上、1000字以内で記述しなさい。

平成 26 年度入学試験問題

小論文

農学部 地域農業工学科

出題の意図

この小論文の出題の意図は、地域農業工学科で学ぼうとする受験生が、アドミッションポリシーに関連する食料・農業・環境についてどのくらい関心があるか、また、具体的な事案から問題を見つめ、問題解決について考える力があるかを、本年度、環太平洋パートナーシップ (TPP) 協定交渉を例にとりあげて、日本経済と食料生産や農村環境との関係を論述させることで、農学および地域農業工学への関心の高さおよび知識や文章の構成力、論理性を問い、アドミッションポリシーに照らし、総合的に評価するものである。